

コスモス 6月号

第69巻 第6号

◆宮柁ニカレンダー（27）六月の歌

蝌蚪くわと柔く光りて子らさや性さがおのおの身み丈たけおのおの戦後に得しもの
歌集『藤棚の下の小室』

初出は昭和三十六年「短歌」六月号。「緑の金くれなるの金」三十首の一首。かつて「群むられる蝌蚪くわとの卵に春日さす生れたければ生れてみよ」（『日本挽歌』昭28）と詠まれた生き難い命の象徴「蝌蚪」が、本作では自由を謳歌する命として詠われている。

掲出歌が詠まれた時、子どもたちは十六、十四、十二歳。思春期を迎え個性が芽生える年頃である。歌集に収録するにあたり、小題は「緑の金、くれなるの金」に改められた。加えられた読点に三人三様の成長を喜ぶ父の心情が滲んでいる。（藤野早苗）